



日造協ニュース

2026.4月

通巻 第 625 号

Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

2面 令和8年度事業計画

【学会の目・眼・芽】自然を豊かにする造園とは

（松）日本造園学会監事、東京都市大学環境学部環境創生学科教授 横田 樹広

3面 国際園芸博覧会の会場視察 実施報告

地域リーダーズ勉強会（群馬）実施報告

4面 【ふるさと自慢】 首里城復元の年に訪れたい 歴史薫る首里のまち

沖縄県支部 中山 里美（株）桃原農園

【緑滴】おしゃれ空間を求めて 兵庫県支部 下坊 陽子（株）対馬造園店

第2回 通常理事会を開催 事業計画・収支予算(案)など審議・承認



理事会のようす

令和7年度第2回通常理事会を3月27日(金)、東京都千代田区の都市計画協会会館で開催し、令和8年度事業計画(案)など4議案を審議、承認。また、2027国際園芸博覧会に向けた金子恭之国土交通大臣からのビデオメッセージもいただいた。

理事会は冒頭、和田新也会長が「国際情勢が不安定な中、資材の高騰、働き方改革への取組、担い手の育成・確保など、課題も山積している。これらの多くの課題については、従来からの事業の適切な実施に加え、新たな事業展開を図り、造園業界の発展基盤の強化を進めていく必要があると考えてい

る」とあいさつ。次いで、片山壮二国土交通省都市局公園緑地・景観課長より、ごあいさつと国土交通省からの情報提供をいただいた。

議事は、令和8年度事業計画(案)など4議案を審議・承認。報告事項は、会長、業務執行理事より職務執行状況、事務局より全国造園デザインコンクール、全国造園フェスティバル、日造協の資格制度、研修・講習などの実施結果、2026年度日造協年間スケジュールなどについて、説明した。



片山壮二課長

樹林

(一社)日本造園建設業協会理事

内山緑地建設(株) 代表取締役 内山 剛敏



美しくなければ 世界は続かない

今年の1月、あるテレビ番組にゲストで出演した、脳科学者の中野信子さんからとても興味深い話を聴きました。

「食べられる貝」と「食べられない貝」の話

私たちの直接の祖先であるホモサピエンスの遺跡の地層から「食べられる貝」と「食べられない貝」が出てきたとのこと。同時代に生きたネアンデルタール人、デニソワ人、フロレス人など他の人類の地層からは、「食べられる貝」しか出てこなかったそうです。「食べられる貝」は生きてゆくための栄養源でした。この実利を重視した人類は約4万年前にすべて絶滅しています。

なぜホモサピエンスだけが生き残ったのでしょうか。

「食べられない貝」を集めたホモサピエンスは、美しい貝殻を装飾、アート、贈り物、交換のツール、あるいは宗教的なシンボル(「美しさ」や意味を持つもの)として認識し、一見無駄に見える「美」や「象徴」に価値を見出し、前頭葉を発達させて集団の結束力やコミュニケーション能力を高め、生存優位性をもたらしたと中野信子さんは指摘しています。

その話を聴いてから、「美」とは何か、「美」は人類にとって何か、「美」は持続可能性に通じるのか、ずっと私の頭から離れません。

現代の「美」意識

私たち造園人は、人生のある時期に何かのきっかけで造園に関わってきました。造園と「美」は切っても切れない関係にあります。私の「美」の基準は、絵になるかどうかです。欧州の街を歩いていると、至る所に

た10名の選手は、熟練した技能を発揮し、あらかじめ考えたコンセプトと図面をもとに樹木や石の組み合わせ、竹の細工など工夫を凝らし、バランスとおさまりを考えながら見栄えよく作り上げていた。

金賞は、造園連広島県支部の藤井幹太氏(風林造園)となった。

大会後は、競技委員の戸田 芳樹氏(株)戸田芳樹風景計画)などが、選手から作庭の想いや工夫したことを聞きながら講評を行った。

本大会で磨いた技能を今後もさらに鍛錬し、さらなる飛躍と自らの仕事や業界の技能向上に活かしていただきたい。

技能グランプリ競技委員 西村 剛彦

フレームに収まる空間美があります。ずっと見ても飽きない景観、ずっと佇んでいたい空間があります。スケッチブックに向かうペンが止まりません。

葛飾北斎や歌川広重の風景画は遠近法を駆使して、季節感とともに見えていて飽きのこない空間構成を見せています。残念ながら、現代の日本の都市景観は「美」が欠落しています。描きたい風景が見当たりません。世界を見渡しても、美しくないことばかり目に入ります。これで世界が続くのかと危機感を覚えます。

今こそ世界の「美」意識を取り戻す機会があるとすれば、一つには「2027年国際園芸博覧会」があります。今年の3月19日に開幕1年前を迎えました。開催の目的は「持続可能で自然と共生する社会の実現に向けた提案」です。

「美」を認識したホモサピエンスが直面した数々のリスク(気候変動、環境変化、深刻な食糧危機など)を乗り越えて現代に繋がっています。持続可能な未来を築くためには、2027年国際園芸博覧会は美しくならなければなりません。美しい景観、美しいアプローチ、美しい田園風景、美しい数々のエリア構成、美しい導線、美しい庭、美しいガーデン、美しいイベント、美しい出展・展示、美しい来場者、美しい笑顔、美しい言葉、美しい振る舞い。

特に未来を築く次世代の子供たちが、この2027年国際園芸博覧会を通して「美しく生きていこう」と感じてくれることを切に願っています。

人事異動

国土交通省都市局関係(4月1日付)
大臣官房付=湯澤将憲(都市局参事官)
都市局参事官=舟久保敏((独)都市再生機構本社統括役)

元副会長 鬼頭慎一氏が急逝

日本造園建設業協会元副会長で、永年にわたり本協会の発展にご尽力いただきました鬼頭慎一氏(株)双葉造園代表取締役)が4月3日に亡くなりました。77歳でした。

鬼頭氏は平成16年に理事に就任、平成26年より副会長を務められ、令和2年には旭日双光章を受章されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

2025年度 技能グランプリ開催

第33回 技能グランプリが、2月28日～3月2日に大阪府で開催された。この大会は、厚生労働省、中央職業能力開発協会等の主催により、1級技能士を対象として、技能競技を通じ、日頃から研鑽を積んだ技能を競うことにより、一層の技能向上を図るとともに、その熟練した技能を広く国民に披露することにより、その地位の向上と技能の振興を図ることを目的として実施する大会で、造園のほかにも機械組み立てや園芸装飾など30職種で行われている。

造園職種は、インテックス大阪(大阪市住之江区)で競技を実施し、全国



金賞 藤井氏の作品④と講評の様子

から10名が参加した。競技課題は、競技時間9時間で3.5m×2.5mの区画に支給された材料(石、竹、木材、樹木、草花等)を使い、「明日につながる庭2026」を庭園テーマに自由な発想で作庭する。

今回は有名かつ交通の便もよい会場で開催されたこともあり、観客が常に見守る中で競技が進行したが、出場し

令和8年度

通常総会

講演会・意見交換会

6月25日(木) 14:00～

ホテルグランドアーク半蔵門

東京都千代田区隼町1-1

☎ 03-3288-0111

会員の皆様のご参加をお願いいたします。

令和8年度事業計画

I. 造園建設業を取り巻く状況と対応方向

(1) 造園建設業を取り巻く状況と課題

わが国においては、世界的な情勢不安等によるエネルギーや建設資材価格の高騰、人材不足などにより、令和7年の倒産件数が4年連続で前年を上回り、特に建設業では、コスト高や人手不足等により、過去10年で最多となるなど経済社会活動に多大な影響を受けているところである。このようななかで、政府においては、「デフレ・コストカット型経済」から脱し、成長に向けた投資拡大と生産性向上を伴う「成長型経済」への移行を進めるため、将来世代への責任を果たす「責任ある積極財政」の下で、「危機管理投資」と「成長投資」を通じて、時代の要請に応える経済運営を力強く進めていく各種政策が取り込まれ、また、経済成長と社会課題の解決に向けてデジタル技術の活用(DX)、気候変動への対応、生物多様性確保などの環境や社会経済に関する持続可能性、人々のWell-Being(幸福度)の向上を目指した動きなどが加速化してきている。

造園建設業が携わる身近な公園などの緑のオープンスペースの重要性は、コロナ禍を経て広く国民に再認識されたところであり、生活行動様式や働き方に変化がみられるなか、造園建設業は、今後の社会経済を支え、人々が健康的に働き、住まい、楽しめる生活基盤を創造する担い手として、引き続き、人と自然が共生する緑豊かな社会の形成に貢献していくことが求められている。

一方で、わが国の人口減少、高齢化の進展による技術・技能者の高齢化や若年入職者の減少により技術・技能の承継が困難になる等の課題は造園建設業にとっても構造的な問題であり、次世代に技術・技能を引き継げる労働環境の整備に向け、着実に対応することが必要である。

(2) 諸課題への対応方向

造園建設業が、社会経済を支える生活基盤を創出する担い手としての役割を今後とも果たしていくためには、地域の維持、緑の創造・維持・再生、伝統的文化の継承など社会の要請に的確に応えるとともに、担い手の育成・確保、造園力の向上、造園の社会認知度の向上、造園力の発揮機会の拡大、工事原価や人件費の著しい上昇への対応など受注環境の改善等に向けて、各種活動を展開していくことが必要である。

とりわけ、担い手の育成・確保に向けては、建設業における働き方改革、適用から3年目となる残業時間の罰則付き上限規制等に適切に対応するとともに、昨年12月に完全施行された第3次担い手3法に基づく適正な契約推進のさらなる取組みや、法定福利費の確保・社会保険等の加入促進、週休2日の推進、安全衛生の徹底、女性活躍環境の構築、適正賃金の確保、生産性の向上、新規入職者の確保等に取り組む、雇用環境の改善を精力的に進めていくことが必要である。

造園力の向上に向けては、人口減少や高齢化、高度情報化、気候変動、生物多様性の確保、Well-Being(幸福度)の向上、SDGsの取組など経済社会の潮流の変化や、暮らしの安全・安心の確保、建設DX、地域創生、子育て支援、観光・スポーツ振興、グリーンインフラの推進、民有緑地等の質的量的拡大等の政策動向を踏まえ、激甚化する自然災害からの防災・減災、国土強靱化の推進、公園緑地や道路緑地等の効率的な整備・管理運営への対応力強化、持続可能な社会構築に向けた造園技術の展開など各種事業の企画立案、的確な実施に取り組む、造園建設業の明るい未来を開く基盤の構築を進めていく必要がある。

また、令和6年能登半島地震により甚大な被害を受けた被災地の復旧・復

興に取り組むとともに、開催まで1年を切った(総会時点)横浜で開催される2027年国際園芸博覧会や、本年10月の全国都市緑化フェア in 京都丹波をはじめとした「みどり」関係行事の開催を支援し、これらを通じた魅力ある生活環境整備や新たな造園領域の展開に向け、造園建設業界の英知と造園力を結集し、取り組んでいく必要がある。

(3) 令和8年度事業の実施方針

令和8年度の事業に当たっては、諸課題への対応方向を踏まえ、「第4次財政・運営中期計画」(令和5年3月

24日理事会承認)に沿って、健全な財政運営を確保しつつ、以下の事項に重点を置き、事業の実施、組織運営に取り組む。

- 担い手の育成・確保、働き方改革への対応
- 造園力の発揮機会の拡大
- 資格制度の適切な実施と各種資格の取得及び活用の促進
- 建設キャリアアップシステムへの対応
- 安全衛生対策の推進
- 国際交流・協力の推進と2027年国際園芸博覧会の開催及び運営支援
- 会員拡大の推進

II. 令和8年度事業計画の概要 (小項目以下省略)

第1 主要な会務の実施

第2 造園技術、造園資材、造園工事施工の合理化及び造園業の経営の改善に関する調査研究

1. 造園施工技術、造園工事の安全対策の検討
2. 植栽基盤技術、街路樹等の植栽育成管理技術、造園関連資材の品質基準等の検討
3. 会員の実態調査
4. 若年入職者等の確保策の検討
5. 日造協活動の戦略的展開に関する調査研究

第3 公園緑地、道路、河川、住宅、工場、学校等の緑化行政に対する協力

1. 公園緑地、学校等の緑化行政に対する協力

第4 造園技術に関する国際交流及び協力の促進

1. 国際園芸家協会(AIPH)の活動への参加
2. 造園関係の国際機関、団体との交流
3. 海外の日本庭園の保全再生等への支援・協力
4. 国内外の最新情報の収集・発信
5. 国際園芸博覧会開催への支援・協力

第5 造園業に関する情報、資料の収集、提供

1. 技術・技能の向上、経営の改善等に向けた情報提供
2. 造園技術フォーラム等による技術情報の共有化
3. 安全衛生対策の推進
4. 行政情報等の提供
5. 会員名簿の発行

第6 関係行政庁その他関係機関への

政策提言、建議、要望等

第7 造園技術者及び技能者の養成、資格の認定並びに研究会、講習会等の開催

1. 技能五輪大会等への参加、協力
2. 第53回全国造園デザインコンクールの実施
3. 担い手の育成・確保の推進
4. 資格認定事業等
5. 研修会等の開催
6. 会員のための福利厚生事業及び会員支援事業

第8 造園・環境緑化に関する普及啓発及び広報活動並びに機関紙、図書の刊行

1. 全国造園フェスティバル等の開催
2. 機関紙の発行等
3. 図書の刊行
4. メールニュースの配信
5. ホームページの運営

第9 その他本会の目的を達成するために必要な事業

1. 社会貢献活動への取り組み等
2. 造園・環境緑化産業振興会の活動
3. 表彰
4. 雇用改善事業等

第10 安心して安全な国土形成への支援活動事業

1. 大規模自然災害からの復旧・復興支援と防災協定の締結推進

学会の目・眼・芽 第149回

自然を豊かにする造園とは

(公社)日本造園学会監事、東京都市大学環境学部環境創生学科教授 横田 樹広

「ネイチャーポジティブ」に向けた官民の取り組みが進む今、造園と自然の関係は、大切な局面を迎えています。自然再興の実例や技術を生み出していくうえで、造園界の総合的に、大きな期待がかかります。



さて、自然をポジティブにするためには、私達による自然へのインパクトをよく理解することが、不可欠です。造園としての営みが、自然にどのようなインパクトを与えるのか、質的に問うことが必要でしょう。自然の状態はどのように測られるべきなのか、今まさに国際的に議論が進められています。



土木では、環境を創りながら自然を復元する技術が、「近自然化」の文脈で実現してきました。切り回された河川を、本来の自然の流路に近づける。切土・盛土で改変された造成地を、元の表土や埋土種子で緑化する。私達のインパクトを打ち消すように、近自然化から再自然化を促してきました。その一部は、環境としても技術としても、ポジティブなストックとして認証されています。



では、そういった自然回復を通じて、自然自体の成り立ちもポジティブに改善したと、言えるでしょうか。回復以前に、インパクトで成り立ちを失っていないでしょうか。ど

の前提でのポジティブなのか、検証が必要です。それがなく、グリーンインフラという言葉だけで自然にとってポジティブだと誘導する社会を促さないよう、私達自身、注意が必要でしょう。常に自然の状態と向き合い、人と自然のバランスを一体として整える、造園らしい検証があるはずで



また、とくに防災と自然の関係となると、NatureをHumanに先行して考えることの限界性が浮き彫りになります。だからこそ、まず自然の成り立ちから問うことが必要でしょう。自然がどう変化しており、私達の次のアクションにどう反応し、お

互いに何をもちあわせていくのか。自然に根差して= Nature-basedに、解決策を見出していくために、造園だから示せる見方があるはずで



結果として徐々に答えが分かる形でよければ、基礎科学に委ねることもよいでしょう。しかし、これは私たちの次のアクションの問題です。造園という行為と切り離せない「景観生態学」も、その回答を支えるべく再興されるべきなのではかとも思います。

「自然を豊かにする造園とは」という問いを、日本造園学会の中で、深化させていくことができればと思っています。

都市生態学、生態計画を専門。流域や集水域の水循環における緑地の機能、生態系を活かした気候変動適応のあり方について、NbS(Nature-based Solutions)の観点から取り組む。



GREEN × EXPO2027 国際園芸博覧会の会場視察 実施報告



ムサシノケヤキを背景に集合写真

技術委員会では、2月6日(金)の定例の委員会開催に合わせて、2027年国際園芸博覧会特別委員会委員や出展関係の日造協会員と共に、GREEN × EXPO2027の会場視察を行ったので報告する。

今回の視察は、会場整備の進捗状況や計画内容を把握するとともに、今後の事業展開および関連施策の検討に資する情報収集を目的として、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会にご協力いただき実施した。

現地では、博覧会協会の佐々木貴弘部長らや、各工区の受注業者3社(㈱日比谷アメニス、㈱石勝エクステリア、箱根植木㈱)の担当者、井上敏宏政

府出展屋外工事ディレクター(㈱植芳造園)からそれぞれ説明を受けた。

現在は造成工事および基盤整備が急ピッチで進められており、主要動線やゾーニングの骨格が確認できた。特に、来場者導線を意識した空間構成が計画されており、安全性と回遊性の両立が図られている点が印象的であった。

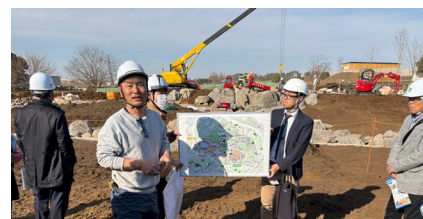
会場は複数のテーマゾーンに分かれ、花と緑を核とした展示に加え、グ

リーンインフラをはじめ環境配慮や持続可能性をテーマとしたエリアの整備が計画されている。都市と自然の共生を表現する内容となっており、国内外の来場者に対して高い訴求力になるであろう。

また、会場全体として、未来志向のランドスケープと都市環境の融合が強く意識されており、国際的なイベントとしての完成度の高さが期待される。

開幕までちょうど1年となった3月19日(木)には記念イベントが開催され、新しいキャッチコピーが「地球と。咲きに行こう。」となり、およそ70の国や国際機関と400ほどの企業や自治体の出展が決定しているとのことである。

最上位(A1クラス)の園芸博の国内開催は1990年大阪での「国際花と緑の博覧会」(花の万博)以来37年ぶりである。花の万博では予想を超える約2,300万人が来場し、その後も造園や花卉の業界拡大の後押しをした。国際園芸博覧会が再び業界拡大への契



上から造成工事の状況、会場での説明、井上ディレクターの説明

機になることを期待するとともに、業界関係者でもより一層盛り上げていきたい。

地域リーダーズ勉強会 (群馬) 実施報告

3月13日(金)~14日(土)に地域リーダーズ勉強会を群馬県太田市で実施し、全国の会員や賛助会員など合わせて150名が参加した。

1日目【講演会・ワークショップ】

講演では、㈱しみづ農園 代表取締役社長 清水大助氏が「創業110年企業から120年企業に向けて」と題し、長く企業を継続させるための理念や取り組みについて紹介され、続いて「私の波乱万丈・事業承継」(㈱山梅 代表取締役社長 山田通明)と題して、自身の経験をもとに事業承継の苦労や学びについてお話しさせていただいた。

今回の事例が、参加者にとって企業の持続的発展や事業承継について考える機会となれば幸いだ。

また、前回好評であったワークショップも実施。「私の頑張っていること、頑張ってきたこと」をテーマに、1グループ8名ほどで16グループに分かれ、ニックネームで呼び合いながら自己紹介や自身の経験について語り合い、活発な交流が行われた。

コースの2つに分かれ、それぞれ施設の管理運営や取り組みについて説明を受けた。参加者は現地を実際に見ながら、現場における工夫や地域との関わりについて理解を深めた。

また、希望者はプロバスケットボールの試合も観戦した。群馬県太田市をホームタウンとする群馬クレインサンダーズは、バスケットボール男子Bリーグ・プレミア入りを果たすために、5千人収容の新アリーナの建設が必要になったところ、スポーツで街づくりを進めたいという想いを持つ太田市が、太田市運動公園内に新アリーナを建設することで、ホームを前橋市から太田市に移転した。太田市は、行政の熱心な働きによりスポーツによる地域振興が成功した事例ともいえる。

なお、新アリーナの建設財源には、オープンハウスグループから太田市の地方創成応援税制(企業版ふるさと納税)を活用していることで、市と民間にとってそれぞれに効率的で有利な事業となっている。

【まとめ】

今回の地域リーダーズ勉強会は、私の地元である群馬での開催となり、関



1日目の講演⑤とワークショップ⑥ 集合写真⑦



2日目 各コースの集合写真

東・甲信総支部や群馬県支部会員の皆様のご協力により盛会のうちに終えることができました。ご協力いただいた関係者の皆様、また参加いただいた皆様の

ご協力にも心より感謝申し上げます。地域リーダーズ 関東・甲信総支部リーダー 山田通明



集草ボックス一体型のライダー、好評発売中



コンパクトな車体でバツグンの旋回性能!
ライダーから降りることなく刈高調整と刈芝排出が可能!



RC320Ts AWD

1,958,000円(税込)
コンピデッキ別売



別売
コンピデッキ112
税込220,000円
■刈幅:1120mm

ハスクバーナ・ゼノア株式会社 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-9

お問い合わせ先

東北支店 050-3354-7002 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県

中部支店 050-3354-7003 富山県・石川県・福井県・岐阜県・愛知県・三重県・静岡県

西部支店 050-3354-7009 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県

九州支店 050-3354-7012 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

本社・左記エリア以外

0570-550933 受付時間 9:00~17:00(土・日・祝日除く)

info.hv@husqvarna.jp ハスクバーナHP www.husqvarna.com/jp/ ゼノアHP www.zenoah.com/jp/

歴史薫る首里のまち

沖縄県

沖縄では春を「うりずん」と呼び、草木がいきいきと芽吹く季節を表しています。

毎年3月下旬～4月上旬には海開き、それに合わせて4月には日本で一番早い夏の花火大会「琉球海炎祭」も開催され、本土より一足早く夏へ突入します。

今年は首里城正殿の復元の年。秋には正殿が完成し、その後、北殿・南殿の復元が予定されています。正殿の完成に合わせて旅行を計画している方も多いのではないでしょうか。

今回はその首里城周辺についてご紹介します。

弊社は創業当時、那覇市首里桃原町にて事業を開始しました。社名の「桃原農園」は、当時所在していた町名に由来しています。

そんな那覇市首里には、赤瓦

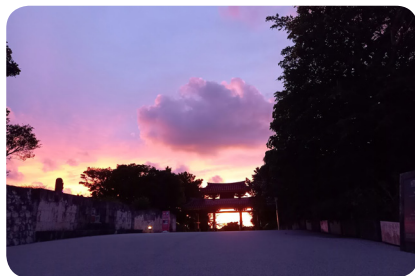


「うりずん」を告げる月桃 首里城復興応援車両

の屋根や歴史を感じさせる石畳の道が残り、ゆるやかな風が時の流れをそっと運んでくれ風情ある街並みが今でも残っています。

また「サンゴ染め・紅型染め」の体験や「ぶくぶく茶」の専門店などもあり、沖縄ならではの文化にも触れることができます。

ゆったりとした時間が過ぎていく中でも、お腹は空いてきます。お昼は沖縄そば、夜は（首里は高台ですので）夜景の見え



守礼門の夜景

るレストランでお食事をしてはいかがでしょうか。

そして、旅に欠かせないのはお土産です。首里周辺では紅型製品や泡盛、ちんすこう、工芸品など、沖縄の歴史と文化を感じられる品々が揃っています。

沖縄へお越しの際にはぜひ首里にもお立ち寄りいただき、魅力あふれる風情と文化にふれてみてはいかがでしょうか。



首里城の花まつり



首里琉染「サンゴ染め」

うか。 沖縄県支部 中山 里美 (株桃原農園)

新入会員のご紹介 ようこそ日造協へ！

Table with 2 columns: 社名/住所 and 代表者 / FAX. Includes members like 若菜 義大 and 小銭 英泰.

Table with 2 columns: 社名/住所 and 代表者 / FAX. Includes members like 阿部 浩知 and 上野 喜寛.

日造協ホームページリニューアルのお知らせ

令和8年4月1日より、リニューアルしたホームページになりました。必要な情報にスムーズにアクセスできるよう...

シブウェブデザインを取り入れ、各種端末に対応。バナー広告の掲載も可能となりましたので、ご利用ください。



造園 CPD に関するお知らせ

- 造園 CPD の継続確認・入退会の手続き
日造協会員及び日造協運営資格の有資格者について、2026年度の造園 CPD 会員の入退会と継続確認を行います。

- 造園 CPD 年会費：2,500 円 / 名 (日造協経由で入会した場合)
造園 CPD システム変更 (造園学会より)
造園 CPD システム移行により、2026年4月1日より下記のとおり変更になりました。

緑滴

趣味兼気分転換は、友人と会う時、おしゃれなカフェへ行くことです。思い返せば、高校生から続いていることだなと思います。

場所と、日曜日でも空いてるかをチェックして、まず1人で行ってみます。

最近では、ほんとにおしゃれなカフェが多く、海外の様なオープンカフェは、前から結構ありますが、図書館と併設や、神戸北野異人館にスタバが入っているところなど、行きたい時の気分で決めています。

手作りケーキを提供しているカフェも最近お気に入りです。ドイツに住んでおられたオーナーが、日本に戻られてカフェをオープンするのに、ご自身で内装を決めて、天井の色もこだわって、何回も色を変えたりと、こだわりのお店も増えているように思います。

異国情緒あふれるスタバ

お気に入りのカフェにて



あと気分転換にもう一つ、やはり、体を動かすことです。

今まで、あまり運動した経験がなかったんですが、最近腕周りがガチガチになって、体の後ろまで、回せなくなってきたのと、腰が痛くなってきたので、何をしたら改善されるか調べたら、ストレッチ的な運動、しかも、そんなにハードに動かなくても簡単な動きを10回とか20回動かすだけで、改善されました。

こんな簡単なことで良かったんだと、目からウロコな気分です。

おしゃれ空間を求めて

兵庫県支部 下坊陽子 (株) 馬造園店



事務局の動き

- 4月
7日 広報活動部会
9日 造園 CPD 推進委員会
14日 植栽基盤診断士認定委員会
16日 人材育成部会
20日 地域リーダーズ WEB 会議
安全部会
22日 財政基盤強化・会員拡大合同部会
23日 運営会議
5月
11日 街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会 (試験部会)
12日 広報活動部会
13日 総務委員会及び財政・運営部会合同会議
14日 運営会議
16日 日本造園学会全国大会～5/17日
20日 街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会

- 24日 みのりの愛護のつどい
28日 総支部長等会議 / 第一回通常理事会
役員懇談会

委員会等の活動

- 広報活動部会
3/3 2026年5月までの記事構成、全国造園フェスティバルツールについて審議
財政・運営部会
3/19 令和8年度事業計画(案)・収支予算(案)、令和7年度収支決算見込(本部)等について審議
経営環境改善部会
3/19 日造協団体保険制度についてメールで意見照会
技能グランプリ
2/28-3/1 インテックス大阪で開催 10名参加
厚生労働省との打ち合わせ
3/23 造園ワークショップ開催の普及活動状況の報告と今後の展開について打ち合わせ
地域リーダーズ勉強会(群馬)

- 3/13-14 講演会とワークショップ、交流会と見学会を実施 150名が参加
街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会(試験部会)
3/10 街路樹剪定士認定試験(2～3月)の採点結果と緑地樹木剪定士認定試験(冬期)の試験問題の確認、「公園・緑地樹木剪定ハンドブック」の改訂について審議
街路樹剪定士・緑地樹木剪定士認定委員会
3/16 街路樹剪定士認定試験(2～3月)の合否判定、緑地樹木剪定士認定試験(冬期)の試験問題、「公園・緑地樹木剪定ハンドブック」の改訂について審議
登録造園基幹技能者講習委員会
3/19 今年度実施した3会場の修了試験の合否判定と来年度の開催計画について審議
植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)

- 3/24 来年度の開催と試験問題について審議
国際委員会(全国)
3/23 第1回「海外日本庭園・造園関連業務実例アンケート」(11月実施)の結果、「海外日本庭園情報交換会」(1/7都市緑化機構)結果、「AIPHスプリングミーティング」[定例総会](3/9～12オーストラリア・シドニー)出席、AIPH1年前査察(3/16～17)の打ち合わせ及び日造協主催ディナーについて状況報告
2027年国際園芸博覧会特別委員会
3/8-12 AIPHシドニーミーティング(オーストラリア・シドニー)
3/16-17 AIPH横浜査察
3/19 GREEN x EXPO2027開催1年前記者発表会
3/26 国際園芸博覧会特別委員会

編集後記 雨の多い新年度のスタート。現場で雨風に舞う桜の花びらの美しさや湿気で香り立つ花の香りを感じると、この仕事をやっていてよかったなと幸せな気持ちになります。本年度もよろしくお願いいたします。